

エネルギー政策を考える

再生可能エネルギー礼賛への疑問

霧島虎ヶ尾岡メガソーラー建設反対協議会 代表 中村満雄

原発再稼働、再生可能エネルギー、地球温暖化について問題提起をします。

九電の 2018 年の電源構成は原発 34%、LNG 18%、石炭 25%、太陽光 11%、水力 4%です。

国のエネルギー基本計画 2018 ではベースロード電源として原発、水力、地熱、石炭を挙げています。

◆地球温暖化問題

18 世紀半ばの産業革命以降、化石燃料の使用や森林の減少などにより、大気中の温室効果ガス濃度は急激に増加しました。この温室効果ガスが地球温暖化の原因とされています。

地球の温暖化進行で生態系が変わり干ばつや洪水を引き起こす、南の島が水没する、地球が持つ人を育む力が失せる等々多くの懸念があります。

ところがエネルギーの消費を抑えようとの声は殆ど聞こえてきません。九電は川内原発再稼働後オール電化の宣伝を再開しました。スウェーデンのグレタさんは温室効果ガスの抑制が地球温暖化の切り札と主張しています。

温室効果ガスとは、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガス等です。地球の大気組成はチッソ 78%、酸素 21%、アルゴン 1%、二酸化炭素 0.037%です。この 0.037%をさらに減らそうと言う考えですから大変です。

◆原子力発電の問題

2011 年 3 月 11 日発生した東日本大震災から 9 年経過しました。この国の指導者はフクシマの復興は着実に進んでいるとの認識を持っています。世論調査では原発事故が再発する懸念は 84%、原子力規制委員会が再稼働を認めた原発の安全性が向上したと思わないが 56%です。フクシマ原発のデブリ取出しの道筋は全く見えません。原発のプールにある燃料体の搬出すら終わっていません。処理水貯蔵タンクの増加に歯止めがかからず、海洋放出が検討されていますが、タンクにあるのは比較的安全と言われるトリチウムだけでは無い事が判明しました。汚染土は福島県外へ搬出すると確約しながら、実現の見込みはありません。

原発企業の出向社員で構成される NUMO が原発の廃棄物の地層地中処分について啓蒙活動を行っていますが、手を挙げる自治体はありません。様々な原発の不祥事、さまよう原発のゴミ捨て場、原発の誤ったコスト計算、原発を制御できるとの意思を変えない傲慢な科学者、オリンピック誘致を獲得するためにアンダーコントロールと唱えた我が国の指導者、えご丸出しの立地自治体、我が国の原発政策は破綻していると認識しつつ、これからも国民に多大な負担を押し付けます。

◆太陽光発電

フクシマ原発事故を契機に太陽光発電が重視されるようになりました。産業用太陽光発電が始まったのは2012年、単価は40円でした。それから毎年下げられ現在は13円です。土地保有者でなくとも発電IDが認められたり、同一場所に重なった発電IDが認められたり、問題多い法体系でした。高額認定が投機目的で売買されています。金目当ての外資が群がり、環境を破壊する太陽光発電所を建設しています。売電価格が12円であっても太陽光発電所建設は儲かるのです。

「再生可能エネルギー発電促進賦課金」とは、再生可能エネルギーの固定価格買取制度によって電力の買取りに要した費用を、消費者に使用量に応じて負担させる仕組みで、Kw当たり2.95円です。再エネ賦課金の総額は年度当たり2兆6000億円、これが太陽光発電に群がる事業者の取り分です。

太陽光発電所建設には広大な土地が必要です。たくさんの地権者がいる場所は見向きもされません。ゴルフ場建設頓挫地、別荘建設計画頓挫地、採石場跡地、牧場跡地など地権者が少ない場所が狙われます。私達はお金を払って、環境破壊を担っています。

2019年、九電は度々出力制御を実施しました。太陽光発電のパネル廃棄の手順は確立されていません。一部の事業者は壊れた太陽光パネルの廃棄マニフェストの開示を拒否しています。2019年の台風15号で千葉県市原

市の水上に設置されたパネルが燃え上がる画像は衝撃でした。これが陸上の山間部で発生したらどうなるか、考えるだけでも恐ろしい事です。

種子島近くの馬毛島に米軍のFCLP建設を防衛省が進めています。面積は820ha、ここに太陽光パネルを設置したらどうだろうと妄想します。

◆石炭火力発電

化石燃料の代表であり、温室効果ガスの二酸化炭素排出の元凶として非難にさらされています。

石炭の特徴は資源量が豊富、生産国が分散している、他の化石燃料に比べて低価格で安定、貯蔵が容易、エネルギー源の中東依存度を下げるなどのメリットがあります。問題は二酸化炭素の排出が多い事です。

日本の石炭火力の二酸化炭素、硫黄酸化物の回収率は90超%です。超々臨界圧発電方式は既に実用化され、高効率発電と二酸化炭素回収技術も確立段階にあります。人間の英知で建設する温暖化ガス排出ゼロの石炭火力は地球の救世主になり得るのでは？

◆結論

- ・ 原発の再稼働を抑えたいがための再生可能エネルギー礼賛は間違い。
- ・ 環境破壊の懸念される山間地への太陽光発電所建設は認めない。
- ・ 日本の英知を集結し、温室効果ガス排出ゼロの石炭火力発電所建設を進めよう。